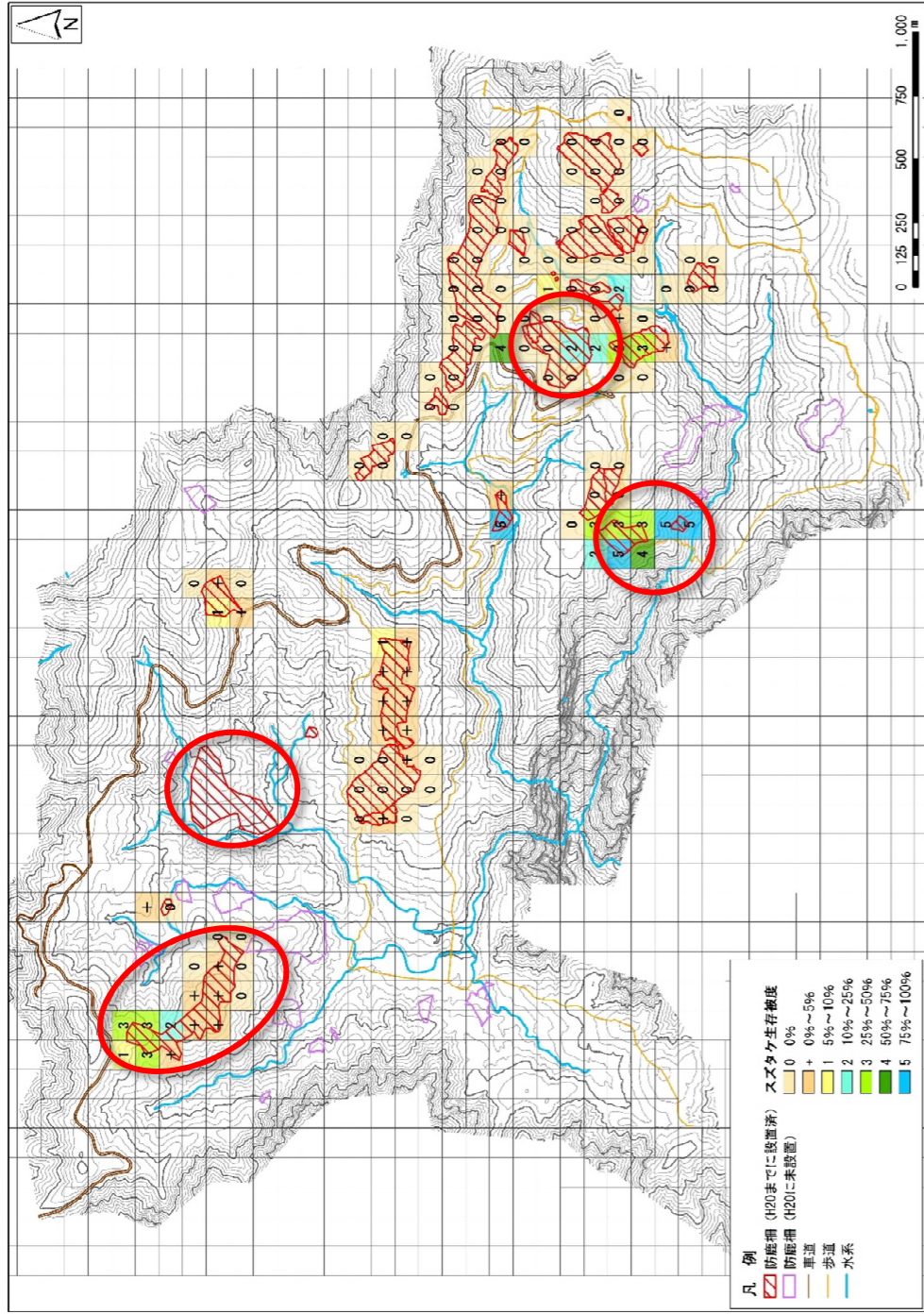


②スズタケ

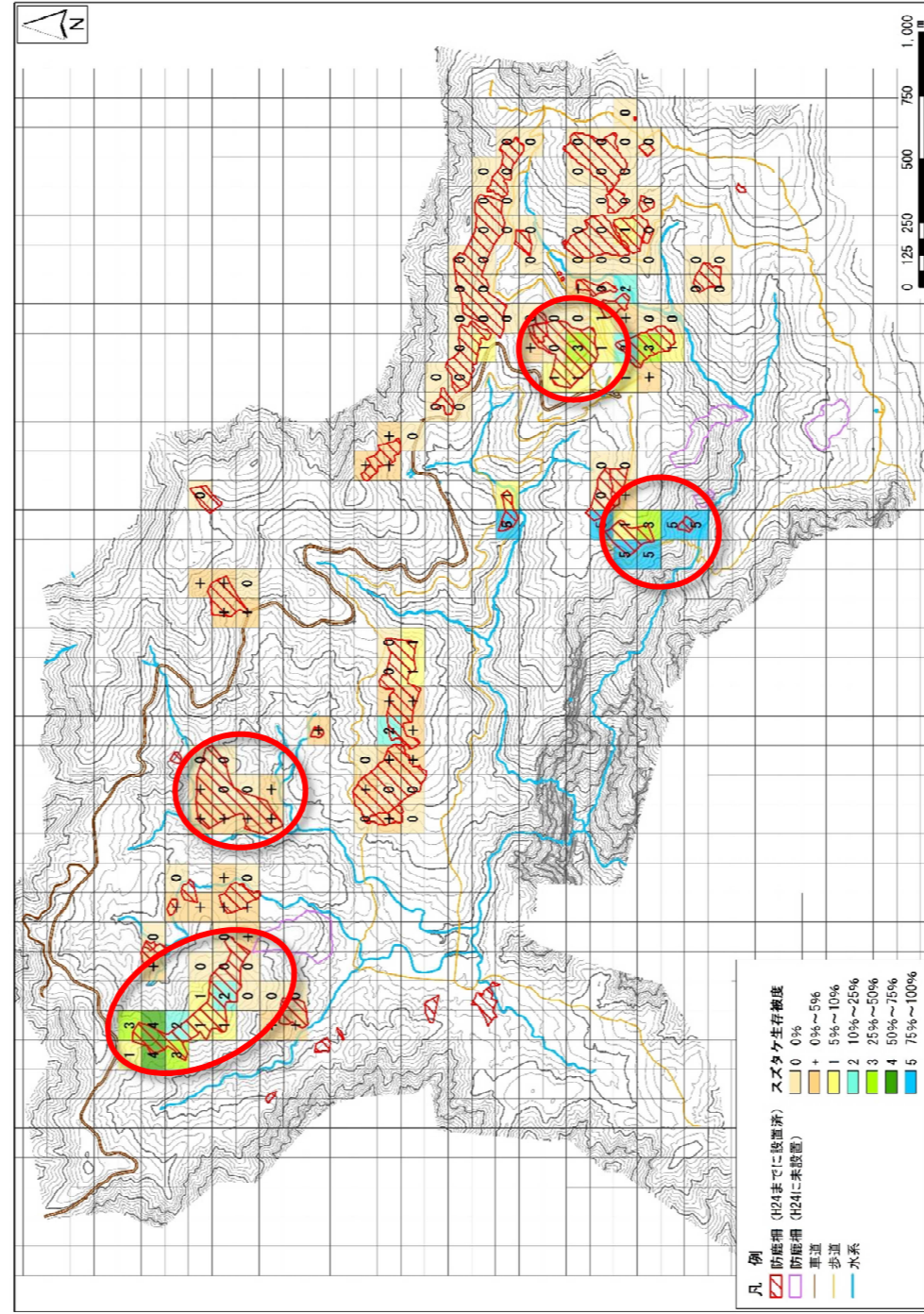
平成20年度、24年度、28年度の防鹿柵内におけるスズタケの被度クラス分布を図10に示した。平成20年度からの防鹿柵内のスズタケの被度の主な変化を以下にまとめた。

- 東大台ではコケ探勝路やシオカラ谷の防鹿柵内でスズタケの被度が上昇している。
- 西大台では経ヶ峰下（植生タイプⅦ）やコウヤ谷の防鹿柵内でスズタケの被度が上昇している。

平成 20 年度



平成 24 年度



平成 28 年度

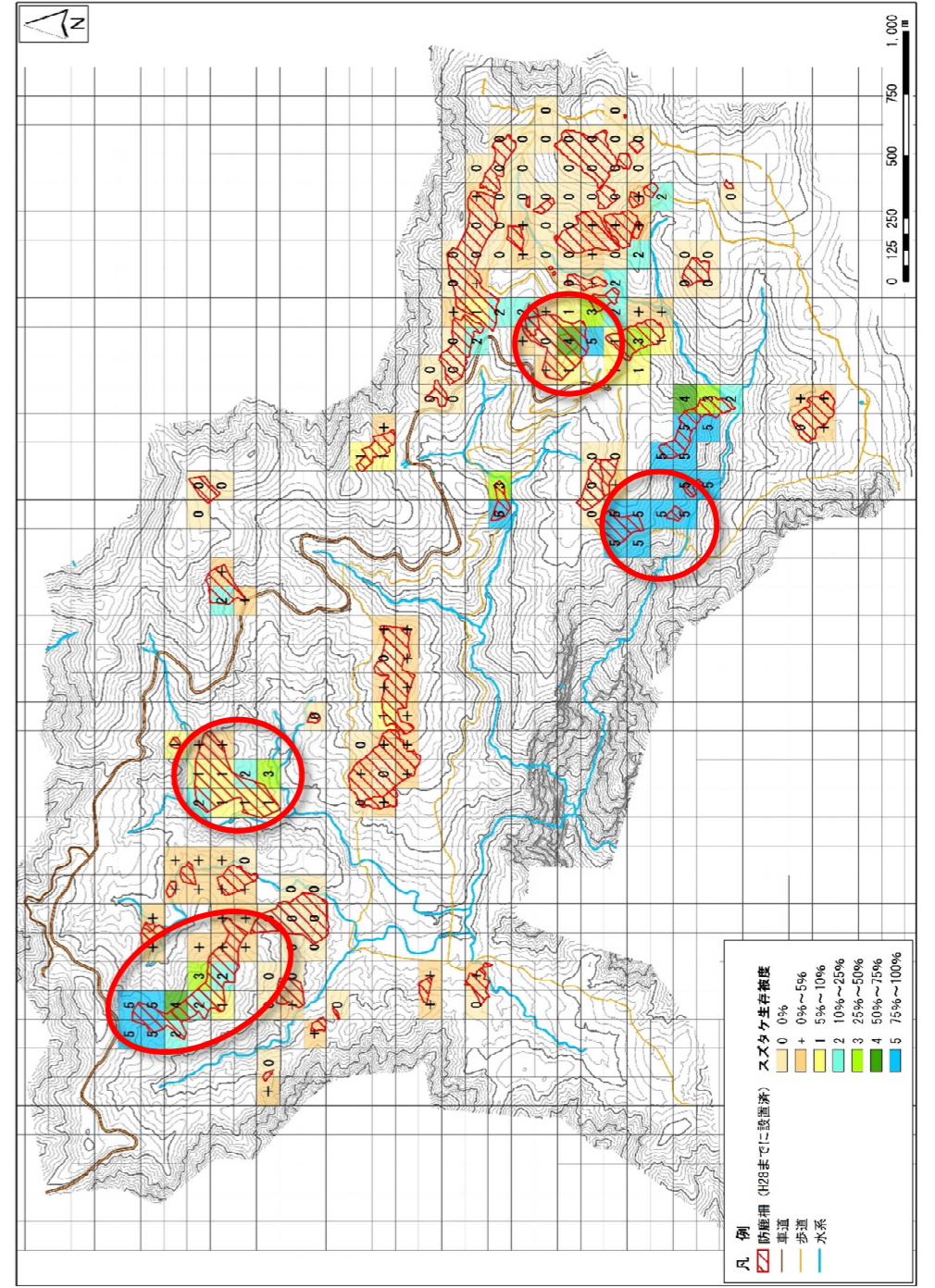


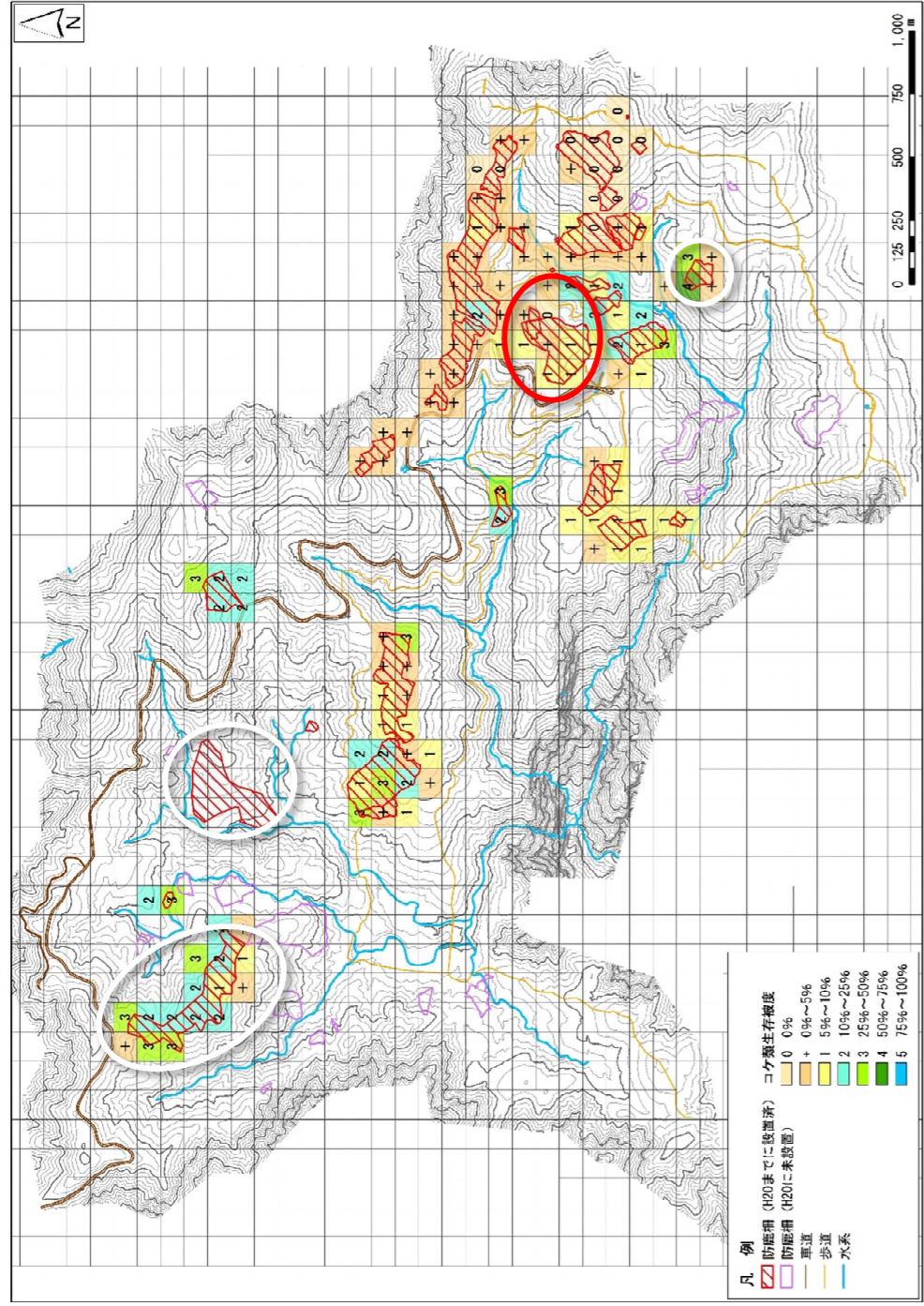
図 10 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるスズタケの被度クラス分布

③コケ類

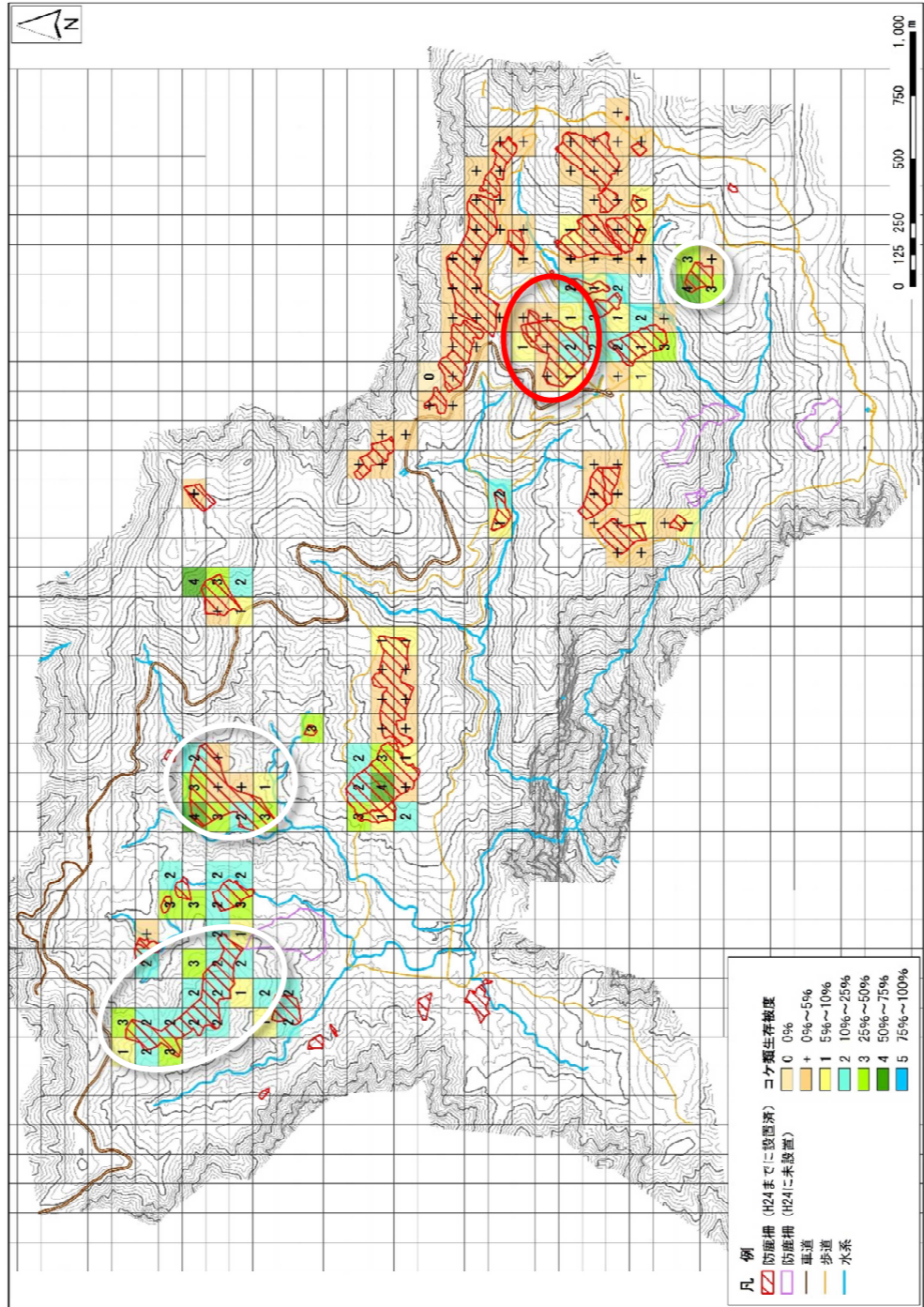
平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるコケ類の被度クラス分布を図 11 に示した。平成 20 年度からの防鹿柵内のコケ類の被度の主な変化を以下にまとめた。

- 東大台では苔探勝路の防鹿柵内でコケ類の被度が上昇している。尾鷲辻の北（植生タイプⅢ）の防鹿柵内ではコケ類の被度が低下してきている。
- 西大台では経ヶ峰下（植生タイプⅦ）やコウヤ谷など、スズタケの被度が上昇している柵内でコケ類の被度の低下が見られる。

平成 20 年度



平成 24 年度



平成 28 年度

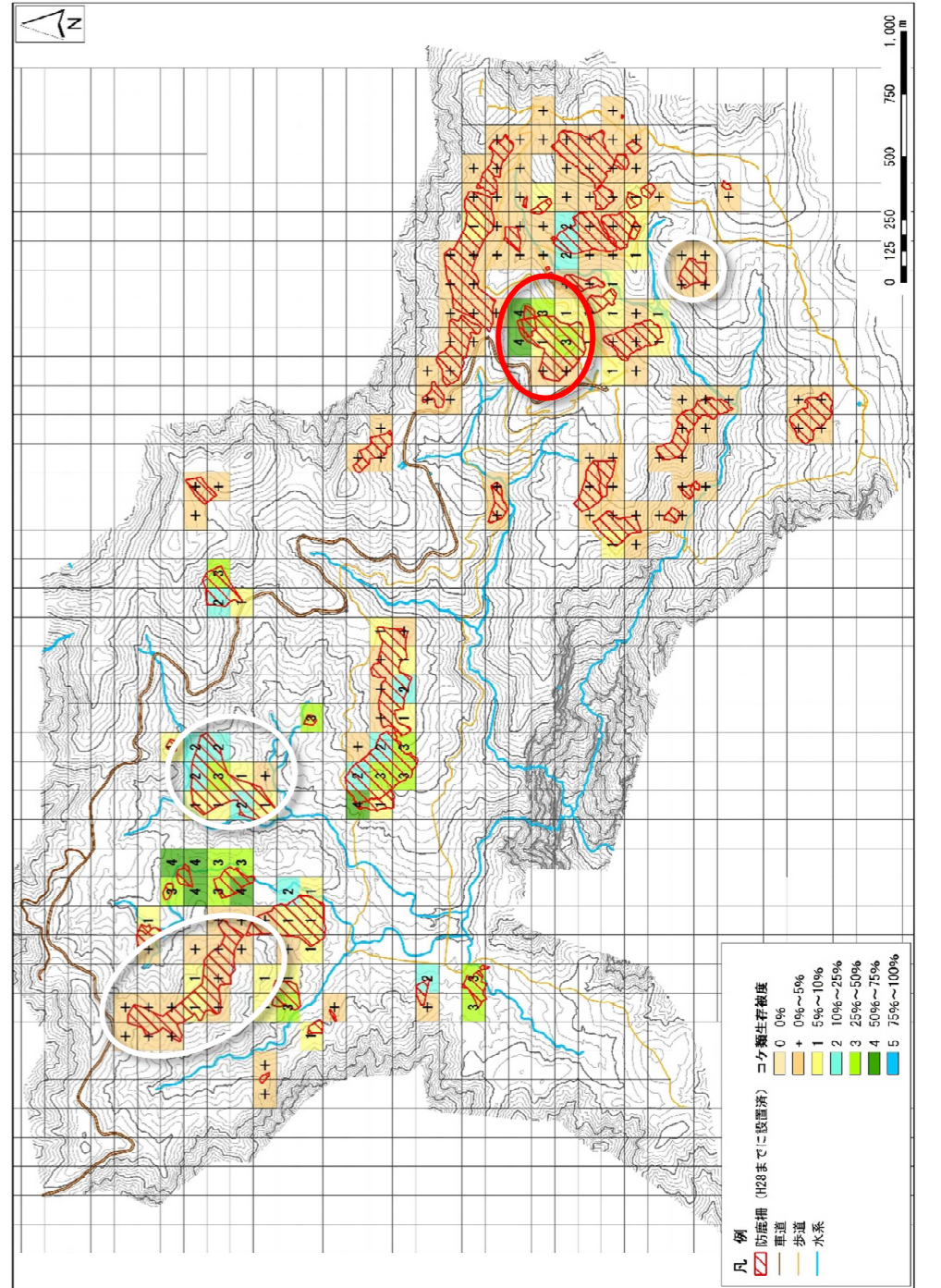


図 11 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるコケ類の被度クラス分布

2) ササ類の稈高の変化

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるササ類の平均稈高を図 12 に、稈高の階級分布の変化を図 13 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵内のササ類の稈高の主な変化を以下にまとめた。

- ミヤコザサ、スズタケともに防鹿柵内では稈高が上昇している。平成 24 年度までは平均稈高はミヤコザサの方が高かったが、平成 28 年度にはスズタケの方が高くなった (図 12)。
- ミヤコザサは平成 28 年度には稈高が 100cm を超えるメッシュも多くなった (図 13)。
- スズタケは平成 28 年度には稈高が 10cm 以下のメッシュは見られなくなり、稈高が 120cm を超えるメッシュも多くなった (図 13)。

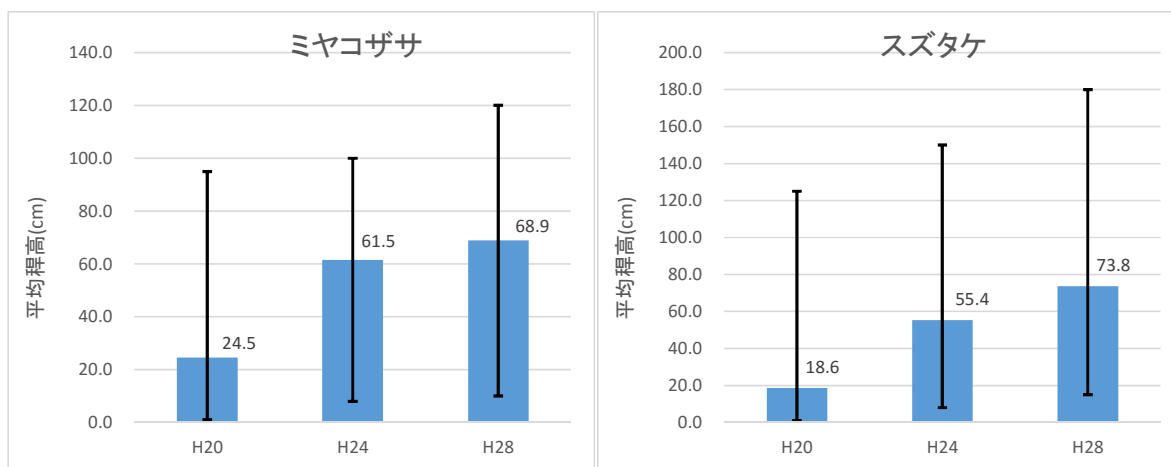


図 12 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるササ類の平均稈高

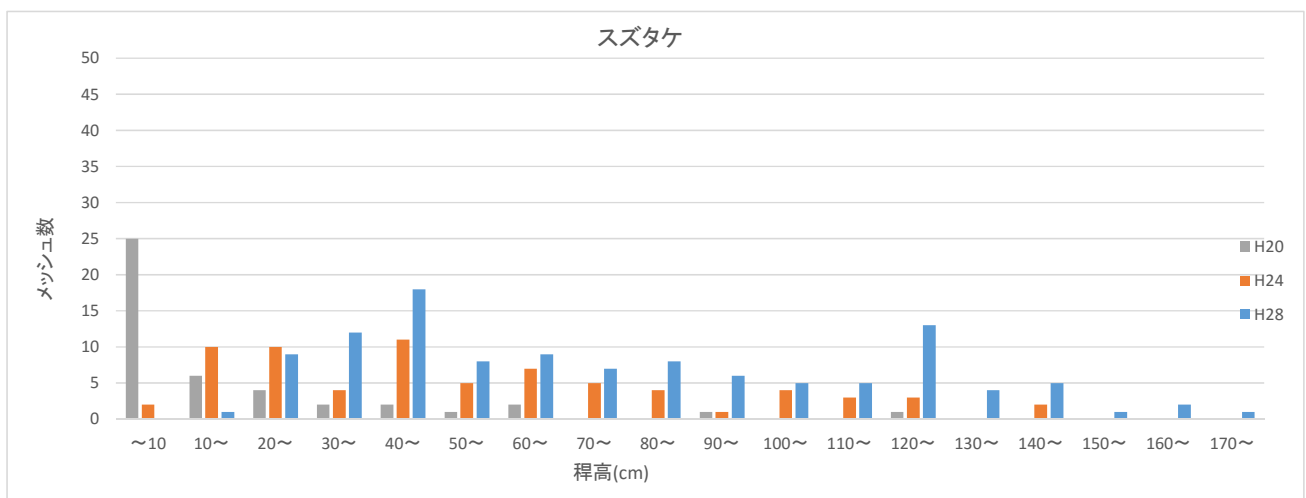
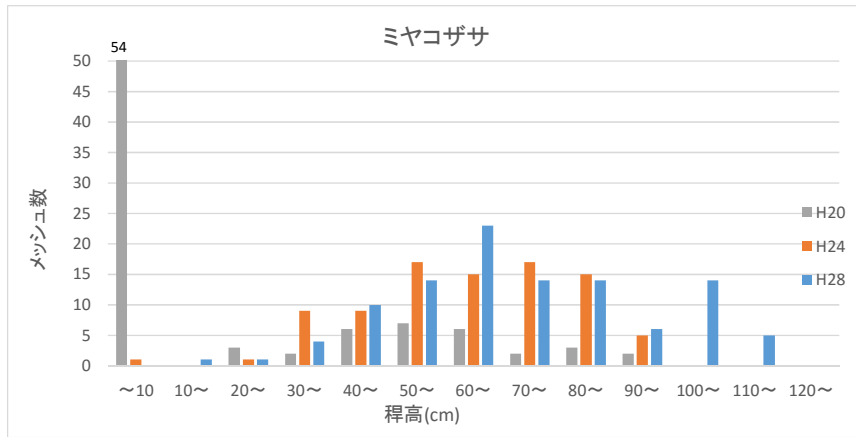


図 13 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるササ類の稈高の階級分布の変化